

叶えられました

池田理代子さん

かかりつけの婦人科医が「ああ、更年期障害ね」と

池田理代子さんが数々の不定愁訴に襲われたとき、もしかして更年期？という考えも、婦人科を受診しようという選択肢もまったく浮かびませんでした。

なぜなら、まだ四〇歳――。

原因も治療法も、相談相手もわからず、一人で耐え続けた年月の長かったこと。

一、二年後、ふと手にした本に書かれていた更年期障害の症状が、すべて自分にあてはまることに気がつきます。

「不妊治療でかかっていた婦人科医の間壁さよ子先生に相談すると『ああ、それは更年期障害よ』とあっさり。先生がHRTのリスクもきちんと説明されたうえで『私も使っているのよ』という一言で、安心してHRTを始められました」

効果は劇的でした。服用後一週間ですべての症状が消え、池田さんは忘れかけていた心身の爽快感を取り戻したのです。不調を感じたときに気軽に相談できる



更年期の体験で気づいた「叶えたかった夢」への挑戦

更年期に、人生でやり残したことのひとつだった声楽家への道を決意。その後見事に夢を叶えました。

婦人科医を若いときから見つけておくことが大事、と池田さんはいいます。

「私にとって間壁先生は、医師としても信頼でき、女性としても憧れる存在。更年期前から出会っていたのは本当にラッキーでした」

更年期をきつかけに夢を実現 六〇歳を超えた今も夢の途中

二十数年前、女性が月経や更年期など体の生理を口にするのははしたないことであり、それに伴う痛みやつらさはじつと我慢するのが当たり前でした。

「私が中学生の頃、四〇代だった母が悲観的になってよく泣いていました。今思えば、更年期だったのかもしれない。

私の叔母は三〇代後半で更年期を迎えたのだそうです。こんなに身近な更年期アドバイザーがいたのに気がつかなかったなんて、もったいないですね」

でも今は時代が違う、同性の相手だけでなく、男性の家族にも更年期のことをいえるようになったことが何より素晴らしいという池田さん。妻が最近ふさぎ込んで、ひきこもりがちなんだと心配する友人には、ご自身がアドバイザーとなり「婦人科受診をすすめてみたら？」と助言することもある。



池田さんの更年期アドバイザー 間壁さよ子先生からのメッセージ

患者さん個人に合わせた治療法を提案していますが、池田さんの場合は血液検査で卵巣機能の低下がみられたため、HRTをすすめました。1週間で症状が消えたのは、当時40歳ごろと比較的お若く、基礎体力があったことも関係しているかもしれません。池田さんは当クリニックでの検査のほかに、自発的に人間ドックなど検診を受けていらっしゃるの、医師としても安心です。



いろいろ試して今はこれ。池田さんが使用する治療薬

ジェル状のホルモン剤（エストラジオール製剤・左）に、子宮体がんのリスクを減らす黄体ホルモン（プロゲステロン・右）を併用。

先の生き方を考え直し、声楽家になる夢を実現させるきつかけとなったのです。「私が人より一〇年早く人生の節目を迎えたことに、意味があったように思えてなりません。これからの夢ですか？ 歌のレッスンをさらに続けていきたいです。私は今もまだ、夢の途中にいるのです」

神田第二クリニック



東京都港区西麻布3-20-14 梅田ビル2階
☎03(3402)0654
診9時～11時30分、14時～16時
休土曜、日曜、祝日
<http://www.kanda2nd.com/>
※保険診療

池田理代子さんの更年期



感うつなど症状は多岐にわたる、耳鼻咽喉科や精神科を受診。抗うつ剤を飲むと眠気を催し仕事にならず、服用を断念。

42歳 婦人科を受診。更年期と判明し、HRTを開始

45歳 今後の人生を新たに考え直し、音大受験を決心

47歳 東京音楽大学 声楽科に入学。プロの声楽家に

一年生のときに東京芸術劇場大ホールでステージデビューを果たす。骨粗しょう症予防のためにもHRTを続けながら六〇歳を過ぎてさらに若々しく。



「人生まだ半ば、やり残したことをやる」と、そもその夢だった声楽家を目指すことを決意。HRTで体調を整えながら音大受験の勉強を始める。